

母親学級における栄養教育の新たな課題と展開についての検討

A study of new issues and developments in nutrition education in parents' classes

鹿野 紀美代
Kimiyo Shikano

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：生活，母親学級，栄養教育

Key words : Life, Parents' classes, Nutrition education

1. 研究目的

若い女性のエネルギー摂取量不足による低体重率者の高値は、我が国の健康に関わる社会問題として指摘されている。この現状において、「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」が提言されている。妊娠前の栄養不足に加え、成人病胎児期発症起源説^[1]にも述べられているように、妊娠中の栄養管理は重要な課題である。人生最初の1000日^[2]の栄養が極めて重要である^[2]との報告もあるが、日本の妊婦はステージ別の食生活を調査した先行研究において^[3]エネルギー・栄養素ともに推奨量・目安量を満たしていないことが明らかになっている。母体と胎児の健康管理を意識する妊娠前からの教育は『成育医療等基本方針』において対策も整備されつつあるが、妊婦にはトラブルを多く認める。また、現状では男女共に妊娠を契機に不安を持つ者が多い。妊娠時に健康な出産と乳幼児の発育のために、妊娠中の母体と胎児の望ましい栄養管理、食事方法についての栄養教育が重要である。妊娠中の母体と胎児、出産における経過を健全するために母親学級の栄養教育が重要な位置づけにあることが報告されている^[4]。

しかし COVID-19 感染予防対策として母親学級も例外でなく中止に追い込まれた。中止になった妊婦とパートナーの 76.2%が「参加出来なくなって不安」と回答している^[5]。COVID-19 禍の調査では、在宅時間が増え自炊率がアップしたとの結果が出ている。しかし胎児の成長に伴う栄養素が推奨量・目安量に届いていない、糖分・塩分の摂り過ぎも明らかになっている^[6]。妊娠中の体の変化や出産、乳幼児の成長・栄養健康などの正確な情報を得る、また同じ立場の妊婦や専門職種の方々と語ることのできる場である「母親学級」の COVID-19

感染収束後の、新しい時代の妊婦の栄養教育を構築する必要があると考える。

2. 研究実施内容

COVID-19 感染前から収束の兆しによって動き出した現在の母親学級の開催状況と COVID-19 感染対策の影響に関する新たな報告や文献調査を行った。また都内 23 区保健所、産科取り扱い病産院などにおける母親学級の対応と実施状況について COVID-19 感染対策による母親学級開催の影響について調査した。

日本産科婦人科学会アンケート調査 (2020.05) では、766 施設中 706 施設 (92.1%) において母親学級の閉鎖が報告されている。東京都城南地区の行政機関においても母親学級は中止されていた。母親学級の必要性は訴えられているが、COVID-19 禍においては開催が見送られ、実施内容の変化、参加形態の変化が見受けられた。

2023.02 現在の実施状況を各ホームページより確認を行った。保健所においては再開されているが、図 1 のとおり対面・人数制限・オンライン・デジタル配信などの実施形態の変化が見られた。産科取り扱い施設においては、図 2 のように対面 25%・オンライン 25%の再開、休止中 25%、不明 25%と再開すらされていない所も多く見られた。また内容も栄養教育が行われていないところも散見された。感染対策のため取られた措置による変化は、集団保健指導を中止、病棟見学制限、個別保健指導での補足漏れなど対象となる妊産婦やパートナーにとっては大きな影響を及ぼした。妊婦同士のつながりの機会の喪失、夫の参加制限やあるいは対応を縮小、あるいは変更して再開したことは、マイナスの影響が浮き彫りとなり、課題と考えられた^[7]。

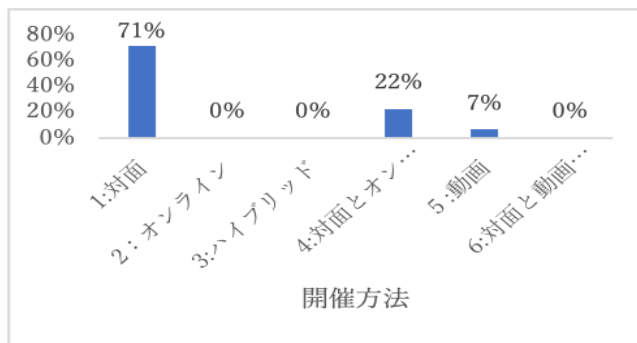
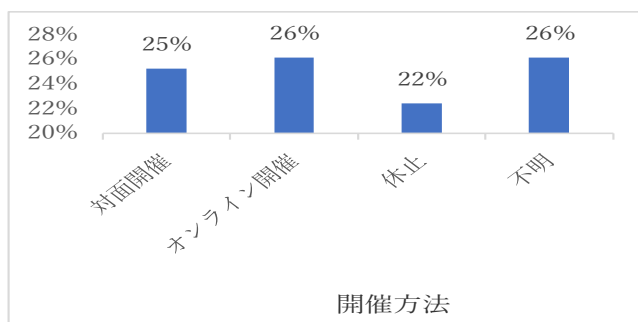


図1. 2023.02. 保健所母親学級実施状況

図2. 2023.02 都内産科取り扱い施設
母親学級実施状況

3. まとめと今後の課題

保健所・産科取り扱い施設において母親学級の実施状況は刻々と変化している。妊産婦とそのパートナーにとって初めて体験あるいは経験の浅い人生のライフイベントに対する不安の解消あるいは物質的、心理的準備などの情報収集の場として、指導の場として重要であるにもかかわらず、COVID-19 感染対策として状況の変化が起きている。施設における現状と要望との隔たり、受講者側の意識と要望にも隔たりが文献的にも明らかになった。これからの取り組みについての課題と対応策が必要と感じられた。

COVID-19 感染前後における実態調査を実施し、状況、意識調査が必要である。都内 23 区保健所・産科取り扱い施設に対して、実施者からみた母親学級の変化、現状の実施状況と課題についてアンケート調査を実施し、今後の新たな母親学級の方角性について検討を行う。また受講側にもアンケート調査を行い、意識・要望等、現状と今後のあり方を明らかにしていく。

母親学級の実態は、COVID-19 感染対策による

変化を明らかにすることも重要であったが、開講内容を調査した結果では、栄養教育としての体系が不十分であったことも明らかになってきた。COVID-19 感染対策の期間中に新たな取り組みとして定着しつつあるオンライン方式、ハイブリッド方式なども視野に入れる必要も考えられる。

母親学級開催の意義と受講者のニーズ、提供する自治体や施設の意識や内容を明らかにしつつ、望ましい母親学級のあり方を検討・実施し提案を行う。

文献

- [1] Barker, D.J. Maternal nutrition, fetal nutrition, and disease in later life. *Nutrition*.1997, 13, p. 807-813.
- [2] Victora, et al. Consequences for adult health and human capital. *Maternal and child undernutrition: The lancet* .2008 ,371, p. 340-357.
- [3]鈴木瞳ほか. 妊娠各期における女性の生活習慣の違いと栄養素の摂取状況の実態調査の分析. 聖路加国際大学紀要. 2022, 8, p. 105-110.
- [4]堤ちはるほか. 母親学級における栄養教育に関する研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 2002, 39, p. 185-195.
- [5]ベビカム株式会社. “「両親学級」「母親学級」の中止で、学びたくても学べないと不安の声”. ベビカム.
<https://www.elevit.jp/sites/g/files/vrxlpx31186/files/2023-03/20230314-survey-report.pdf>, (参照 2022-4-25)
- [6]バイエル薬品株式会社・一般社団法人ラブテリ 1. “コロナ禍妊婦栄養研究”. コロナ禍妊婦栄養研究白書.
<https://www.elevit.jp/sites/g/files/vrxlpx31186/files/2023-03/20230314-survey-report.pdf>, (参照 2022-10-21)
- [7]菊地圭子ほか. “医療機関における妊婦に対する保健指導の実態と感染症拡大による影響”. 山形県ホームページ.
<https://www.elevit.jp/sites/g/files/vrxlpx31186/files/2023-03/20230314-survey-report.pdf>, (参照 2022-8-3)

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (DB2221) 「母親学級における栄養教育の新たな課題と展開についての検討」を受けたものです。